5-1 「…こと」 = that か? what か?

5-1

「...こと」 = thatか? whatか? — 「もの・こと」 ではすまない what の使い方

1 「訳語」だけでは誤解の元

「whatは『もの・こと』と訳す」と覚えるだけでは誤解の元です。

•「元エースのあの男が強盗殺人を犯したことは今でも信じられません」

I still can't believe **what** the man, who used to be an ace pitcher of the team, robbed and murdered someone. (×)

→ I still can't believe *that* the man, who used to an ace pitcher of the team, robbed and murdered someone. (○)

「こと」という日本語に引かれて上のように書いてしまう人を時折見かけます。確かに「こと」とはなっていますが、ここで用いるべきは、関係代名詞のwhatではなく接続詞のthatです。両者とも「…こと」という日本語訳になるため混同してしまいがちですが、使い分けは意外と簡単で、後続の構造に注目すればわかります。

《「…こと」と訳せる what と that の違い 》

	品詞	後続	訳語
what	関係代名詞	名詞欠落文	~するもの/こと
that	接続詞	完全文	…ということ

確認してみましょう。次の各文の()内には、それぞれthatとwhatのどちらが入るでしょうか。

- 1.「彼が言ったことは真実です」
 - () he said is true.
- 「君が彼のことを信じていることはわかっている」
 I know () you believe in him.

答えはそれぞれ、1がwhatで、2がthatです。

1. 後続のsaidの目的語が欠けている名詞欠落文が続いているので、

関係代名詞whatを入れます。

- → [What he said] is true.
- **2.** ()以下はyou believe in himという名詞の欠落箇所がない完全文なので、接続詞のthatが入ります。
- → I know [that you believe in him].

ただし、同じ「こと」でも両者の表す意味は微妙に異なります。p.027で触れたように、wh-は「未確定」であるのに対し、th-は「確定」を表します。例えば、that you believe in himでの「こと」は、「彼のことを信じているということ」という具体的内容を表しており、それ以外の意味にはなり得ませんが、「彼の言ったこと」=what he saidの場合、「では彼の具体的発言内容は何だったのか?」とはっきりしません。このように「具体的に確定したことなのか」(その場合はthat)、未確定の内容なのか」(その場合にはwhat)も使い分けの参考になるはずです。では確認のためにもう1題tryしてみてください。

- 3. () the attempt to save her had failed soon became widely known.
- a. If b. That c. Unless d. What e. Which 後続はthe attempt to save her had failed という完全文が続いており、同時に()を含む部分全体がbecameの主語、つまり名詞節になっています。
- ▶ () the attempt to save her had failed { soon } became ... V

内容も、具体的に「彼女を救おうとした彼の試みが失敗したということ」なので、正解はd. What ではなく、b. That が入ります。

【訳】「彼女を救おうとした彼の試みが失敗したということはすぐにみんなの知るところとなった」

まとめ

- □「…こと」がthatかwhatかは後続が名詞欠落文か否かで決まる:
 - ☞ that ⇒ 完全文 / what ⇒ 名詞欠落文
 - cf. that = 「確定したこと」 / what = 「未確定のこと」

第5章 what とwhatever 5-2 関係詞と疑問詞との区別

5-2

関係詞と疑問詞との区別

―― 構造では判断ができないが...

1 関係詞も疑問詞も構造は変わらない

p.027で触れたように、wh-系の語は関係詞と疑問詞を兼用します。 whatも例外ではありません。

《 what +名詞欠落文 》

- ① 疑問代名詞:何が/を~するか
- ② 関係代名詞: ~するもの/こと

what は疑問詞も関係詞も後続は名詞欠落文で、全体も名詞節なので形からは判別はできません。結局は意味によるしかありません。

ただし、what そのもので判別ができなくとも、周辺に判別の足がかりがないわけではありません。whatが関係詞でなく疑問詞の場合、ask, know, discuss, remember, have no idea, imagineのような動詞(思考・認識・発言系)や、decide, determineなどの動詞(決定系)と関連することが多くなります。

He does not know what it is like

 to be poor.

it は to be poor以下を受ける仮主語です。what 節全体はknowの目的語となる名詞節ですので、構造は関係詞節と全く同じですが、思考系動詞knowの目的語ということを考慮し、疑問詞ととることができます。

【訳】「彼は貧乏とはどういうものかを知らない ⇒ 貧乏の味を知らない」

- They discussed what they could have done to avoid the conflict.
 *avoid ~を避ける conflict 紛争
- what 節は discuss の目的語であることから疑問詞と考えます。

【訳】「彼らはその紛争を避けるのに(やろうと思えば)何ができたであるうかを話し合った」

ただ、この方法も完全というわけではありません。

I don't remember what he said.

- ①「彼が何を言ったか覚えていません」⇒ 疑問詞
- ②「彼が言ったことを覚えていません」⇒ 関係詞

のような場合はどちらともとることが可能です。次は「オバマ演説」 からの引用です。

- ①Now, there are some who suggest that our system cannot tolerate too many big plans. ②They have forgotten what this country has already done; what free men and women can achieve when imagination is joined to common purpose, and necessity to courage.

 [Obama演説、一部略]
 - * tolerate ~に耐える achieve ~を達成する courage 勇気

第②文ではwhat節が2つ登場しています。2つ目は;(セミコロン) の後ろに続いていますが、ともにforgetの目的語となっています。

► They have forgotten

[what this country has already done]:

what free men and women can achieve

 $\{$ when imagination is joined to common purpose,

and necessity (is joined) to courage }].

2つ目のwhat以下は、「これからのことなのではっきりわからない」ということで疑問詞ととるのが妥当ですが、最初のwhat以下は疑問詞と考えても関係詞と考えてもどちらとも通ります。結局はp.027で触れたように、wh-の持つ「未確定」という意味がここでも前面に出てきているわけです。

【訳】「①さて、我々の体制ではあまりにも多くの大計画に耐えられないではないかという人もいる。②そういう人はこの国が成し遂げてきたこと(何を成し遂げてきたか)、および、想像力が共通の目的と、そして必要が勇気とそれぞれ結びついたとき、自由な男女が達成できること(何を達成できるか)を忘れている」

2 関係形容詞か疑問形容詞かの判別も同じ

whatの直後に「無冠詞名詞+名詞欠落文」と続く場合の判別も同様です。